

メールアドレスの命名について

倉澤 寿之

メールアドレスの個人名部分

メールアドレスの構成はxxx@yyy.zzzといった形になっている。このうち、@より後ろのyyy.zzzの部分はインターネットのドメイン名であり、当該メールを受け取って処理するシステムにつけられた名前である。また、@より前のxxxの部分は、個人名部分であり、簡単に言ってしまうと、メール処理システム上で個人を識別する名前である。そして、自分の好みの文字列をドメイン名部分に使うことも可能ではあるが、ドメイン名の取得や、自前のサーバを運用したりレンタルサーバを利用したりすることが必要なので、誰もがやっているわけではない。これに対して、個人名部分については、会社や学校などの組織から強制的あるいは自動的に与えられる場合を除き、自分で決めることができる。本稿では、このメールアドレスの個人名部分がどのように決められているか、そのパターンを収集し、個人とインターネットの関わりやネット上での自己表現のあり方について考える材料を提供することとしたい。メールアドレスの個人名部分を決めることは、インターネット上で識別される、自分独自の符号を決めることであるから、自分で自分にネット上での名前をつけることと同じであると考えられる。つまり、ここでどんなふうに名前をつけるかということは、相手からどんな言葉で自分を識別してほしいかを示しており、大げさに言えば、ネット上でのアイデンティティを象徴する記号であり、一種の自己表現でもあると言える。

初期の調査から

10年近く前のことになるが、筆者らのグループで、携帯電話メールアドレスの決め方に関連した

調査を行ったことがある(吉田・斎藤・知念・吉野, 2003)。その結果から、携帯電話メールアドレスの個人名部分に使われている文字列の種類を挙げてみると、次のようになる。

(1) 数字を使ったもの

- ・携帯電話番号のまま
- ・自分の誕生日
- ・自分以外の誕生日
- ・自分にとってのラッキーナンバー、気に入った数字
- ・年齢、生まれた年
- ・学籍番号・写真番号など割り当てられた番号
- ・スポーツなどの背番号
- ・記念日
- ・携帯電話を買った日付

(2) 名前(固有名)

- ・自分の名字、名前
- ・自分のあだ名
- ・ペンネーム、ハンドルネーム
- ・ペットの名前
- ・芸能人、有名人の名前
- ・会社名、学校名
- ・自分のイニシャル
- ・自分以外のイニシャル

(3) 好きなものの名前や好きな言葉

- ・文章中の言葉、名言
- ・曲名
- ・歌詞
- ・車の名前
- ・色の名前
- ・ブランド
- ・動物名
- ・食べ物

(4) その他

- ・ランダム文字列
- ・英和辞典で適当に探した単語
- ・文字絵(アルファベットを組み合わせて絵のように見えるようにしたもの)

(1)にあるように、自分に関連した数字や、親しい人物、あこがれの人物の誕生日などの数字、また恋人や配偶者がいる場合には結婚記念日などの日付などは、現在でも見られるメールアドレスの基本的な要素である。この中で「携帯電話番号のまま」というのは、当時携帯電話のメールアドレスの個人名部分が初期状態では携帯電話番号そのものであったことによるものである。電話番号のまま使うこともできたが、希望すればそれを別の文字列に置き替えて使うこともできる状態になっていた。次第に「いたずらメール」(現在では「迷惑メール」「spam」などと呼ばれるもの)が増えて来たために、仕方なく携帯電話番号のアドレスを他の文字列に変えるといったケースもあった。携帯電話アドレスがまだ単なる連絡先情報であり、自己表現の手段としてはあまり意識されていなかったことを示すものとして興味深い。

続いて、(2)の例にあるように、自分を表す記号として名前を使うのは最も一般的な方法であり、それをメールアドレスに使うのは極めて自然である。一方、自分自身のものではない名前、つまりペットや有名人の名前を使うのは、自分にとってとても大切なものとの同化を表しているように思われる。(3)の例も自分の好みや価値観という内面の情報を使っており、自己表現手段として利用されたものと考えていいだろう。

(4)の「その他」に分類されていたのは、「ランダム文字列」や辞書の単語など、かなりいい加減に決めたものと、文字絵という、逆に凝ったものであった。いずれも少数派であった。

メールアドレスを取りまく環境の変化

現在ではメールアドレスを取りまく環境がかな

り変わってきている。第一に、携帯電話が広く普及したことで、メールアドレスの数も非常に多くなっている。そのため、単純な文字列はすでに登録されていて、使えないことが多い。そのため、他の要素を組み合わせるなどしていくので、メールアドレスが長くなる傾向にある。第二に、迷惑メールの増加により、その対策としてメールアドレスを変更する機会が多くなり、なおかつ、一般にメールアドレスが長いほうが迷惑メールの被害を受けにくいと考えられているので、長くなる傾向がここでもある。メールアドレスを長くするためには、当然これまで入れていなかった新しい要素を盛り込む必要があるので、そのための「ネタ探し」が必要になってくる。

最近の調査から

今回は、最近の事例からメールアドレスの要素を拾ってみる。「マイナビ」(就職・転職・キャリア形成支援を主とした情報サイト)では、「コブス横丁」というブログ形式の記事の中で、「個人メアドの由来、教えて！」という調査結果を発表している。これは、会員1,000人を対象に2011年の8月末から9月初めにかけてウェブアンケートで収集した情報をまとめたものである。

この調査の記事で紹介されているメールアドレスの個人名部分の要素には次のようなものがある。

(1)名前やニックネームに他の要素を足したもの

- ・自分の名前と誕生日
- ・あだ名と好きな格言

(2)恋人(の名前)に関連したもの

- ・自分の名前と恋人の名前を入れたもの
- ・恋人と一文字違い

(3)好きなもの

- ・好きなことばのアナグラム
- ・好きな化学物質の名称
- ・スペイン語で好きな言葉

この調査では、その言葉を使った理由もひとつずつ付け加えられており、(1)では「分かりやすい」「長くても覚えられる」が挙げられている。以前

の調査でも同じであったが、自分に関連した情報を使うのは基本的な方法である。

(2)では「似たものにしたかった」「彼女に強いられた」といった理由が挙げられていて、自分の好きなもの、大切なものをメールアドレスの要素として使うという基本的な側面に加えて、一種の愛情表現の手段として利用している側面もあることが見てとれる。つまり、大切なメールアドレスに恋人の名前を入れることで、その恋人に対して「大事にしている」ということを示す一方、そのアドレスを他の人たちにも知らせて使うことで、恋人関係をアピールしているのである。周囲にアピールすることは、変わらぬ愛を誓うことと同様の意味を持っているであろう。

(3)の理由としては、「(好きなことばが) ばれると恥ずかしい」「他の人と違うものにしたかった」といったことが挙げられていて、自分の好きなものを入れるという基本的な要素のほかに、ユニークさを求めたり、そのものズバリではなく「ひねり」の要素を加えたりしている側面がうかがわれる。こうした「ひねり」の要素が必要になってくるのは、前述したように、メールアドレスが普及して多くの人が使うようになったために、ありふれたものではないユニークさが重要な要素となったことにあると考えられる。

mixiのメールアドレスに関するコミュニティから

SNS (Social Networking Service) サイト mixiには、「メールアドレスを考えよう!」という名前前のコミュニティがあり、そこでは様々なメールアドレス命名に関する情報が交換されている。このコミュニティでやり取りされている情報から、最新のメールアドレス命名の様子の一端を見よう。

(1)顔文字系

l_-lやlp_qlなど、アルファベットや記号を組み合わせて顔に見えるように構成する手法は、インターネットの初期から、メールの本文や掲示板

で「smiley face」や「にっこりマーク」の名前で使われてきたが、それをメールアドレスの個人名部分に使ったものである。ただし、メールアドレスの個人名部分には使える記号が限られていて、たとえばカッコ“(”や“)”は使えないので、エル“l”で代用されたりしている。使える文字が限られているため、あまり多くのパターンは存在せず、そのため単独ではなく、他の要素にプラスして使われることが多いようである。顔ではないが、最近はやったものとして“orz”がある。人ががっくりと両手両膝をついた形を表しているが、アルファベットのみなのでメールアドレスの個人名部分として使いやすい。

(2)流行フレーズ系

「どんだけ〜」「ぼぼぼぼ〜ん」といった流行語や誰でも知っている有名フレーズ、あるいは「〇〇ですけど何か」といったネットの世界でよくつかわれるフレーズをそのまま使ったものである。流行語の場合、メールアドレスの持ち主とのつながりはほとんどないが、受け取った相手のウケを狙ってつけているものと思われる。

(3)口癖フレーズ系

「まあいいか」など、人がつい口に出してしまうことの多いフレーズを使ったものである。「頑張ります」のように前向きなものもあるが、「もうだめば」「あと5分寝かして」といった脱力系フレーズの方がほほえましくて好まれるようである。

(4)左右対称系

「qqqqppp」のように左右対称に見えるように文字を組み合わせるものである。顔文字も左右対称である点では同じである。中には、@の前後を同じにしてしまつて、xxxx.ne.jp@xxxx.ne.jpといったアドレスを作つたり、あるいは@の前後を逆順にしてpj.en.xxxx@xxxx.ne.jpと対称なアドレスを作つたりする例もあるようである。しかし、これらドメイン名まで含めて対称にしたアドレスは、ドメイン名ごとに一つしか存在しえないため取得するのが困難で、主な存在価値は希少性にあ

るようである。

(5)暗号系

l (エル)と1 (イチ)、o (オー)と0 (ゼロ)のように、視覚的に似ている文字同士を置き換えていく手法が基本になる。たとえば“love”は“l0ve”と置き換えられる。さらに、“a”の代わりに“q”を使うというやや乱暴な置き換えや、“k”の代わりに“lc”、“w”の代わりに“vv”、“m”の代わりに“nn”を使うといった2文字を使った置き換えもある。2文字を使った置き換えは、「ギャル文字」と言われた、漢字や仮名を分解して他の文字や記号で置き換えてしまうという手法(代表例は「神」を「ネ申」と書くものである)に似たものと言える。こうした置き換えが行われると、一見ただけでは元の文字列が想像できないものが作成でき、「暗号化」と呼ばれている。そのようにして、自分や恋人の名前、大切なものや言葉が「隠された」アドレスを作るわけである。

他の「暗号化」手法として、「アルファベットから特定文字を抜く」という方法も存在する。アルファベットをただ並べたように見えるが、ところどころの文字が抜けていて、抜けた文字を組み合わせると意味のある単語になっている、というものである。

以上、メールアドレスの個人名部分の命名方法を見て来た。基本が名前や生年月日などの個人情報、恋人や好きなものなどであることは変わらないが、ネット社会が普及・成熟して、多くの人が使うようになったことで、ふつうのアドレスではつまらない、ふつうの言葉ではすでに登録されていて使えない、といった事情から、少しユニークで「ひねり」の利いたアドレスが求められてきているように思われる。

引用文献・サイト

吉田佳苗・齋藤梓・知念ともよ・吉野清美 2003
メールアドレスと性格との関係 白梅学園短期大学心理学科2002年度卒業研究発表論文集 p.39-40.

メールアドレスを考えよう！

http://mixi.jp/view_community.pl?id=552487
マイナビ 2011 個人メルアドの由来、教えて！
http://news.mynavi.jp/r_career/level1/yoko/
(数字の1)
2011/10/post_1243.html

(くらすわ としゆき 子ども学部)